

## おとな向けアンケートの結果概要

これまで、「新潟市子ども条例」を周知するため、学校と連携したパンフレットの制作・配布や動画を活用した SNS 広告、フリーペーパーへの掲載など、様々な角度で広報を行ってきました。

今回、子ども条例の認知状況や、子どもの権利に関する考え方等を把握するためおとな（子どもの有無は問わない）に対し、複数のアプローチによるアンケート調査を行いました。

### 1 実施方法

インターネットを使用した専用フォームまたは紙アンケートによる回答

#### ① イベント会場

11月の「子どもの権利推進月間」に合わせて参加・実施したイベント

- ・10/2（日）BSN キッズプロジェクト（万代シティ）
- ・11/5（土）子ども条例啓発イベント（イオンモール新潟南）
- ・11/27（日）ベビファミランド 2022（朱鷺メッセ）

#### ② 12/8（木）フリーペーパー - assh への掲載

#### ③ assh Instagram への掲載及び SNS 広報

#### ④ 市公式 LINE、にいがた子育て応援アプリ、市ホームページ

### 2 アンケート結果

実施期間：12/8～R5. 1/9（月・祝）まで（①イベントを除く）

回答数：合計 1,816 件

内訳 ①イベント 238 件 ②assh 160 件 ③Instagram 765 件 ④市関係 653 件

#### ▽イベントでのアンケート協力要請



#### ▽assh12/8号掲載記事

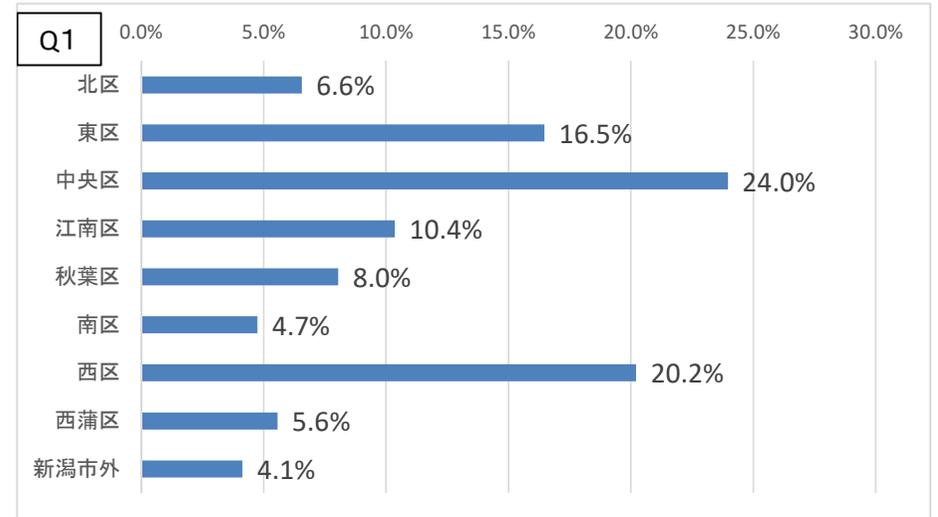


「新潟市子ども条例」おとな向けアンケート集計結果

Q1 あなたのお住まいの区を教えてください。

選択肢	割合	件数
北区	6.6%	119
東区	16.5%	299
中央区	24.0%	435
江南区	10.4%	188
秋葉区	8.0%	146
南区	4.7%	86
西区	20.2%	367
西蒲区	5.6%	101
新潟市外	4.1%	75
	100.0%	1,816

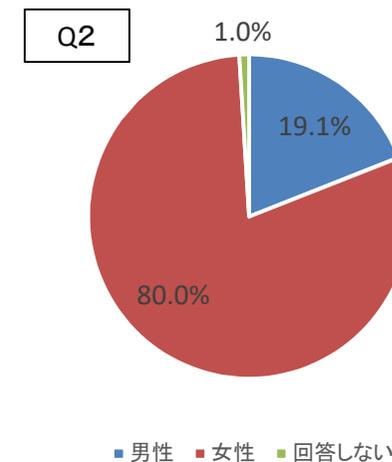
n= 1,816



Q2 あなたの性別を教えてください。

選択肢	割合	件数
男性	19.1%	313
女性	80.0%	1,312
回答しない	1.0%	16
	100.0%	1,641

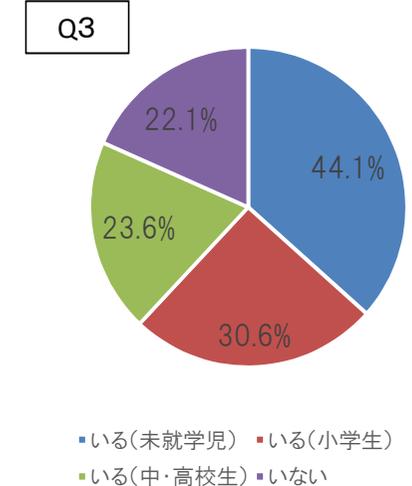
n= 1,641



Q3 あなたのご家族にお子さん(18歳未満)はいますか。(複数回答)

選択肢	割合	件数
いる(未就学児)	44.1%	800
いる(小学生)	30.6%	555
いる(中・高校生)	23.6%	428
いない	22.1%	402
	120.3%	2,185

n= 1,816



⇒ お子さんが「いない」人からも2割近くの回答が寄せられています。

Q4 新潟市子ども条例を知っていますか。

選択肢	割合	件数
内容まで知っている	12.6%	228
名前は知っている(聞いたことがある)	44.4%	807
知らない	43.0%	781
	100.0%	1,816

n= 1,816

⇒「内容まで知っている」または「名前は知っている(聞いたことがある)」と回答した人の割合57%一定数が本条例について聞いたことがあり、うち12.6%の人が内容を把握していることがわかりました。

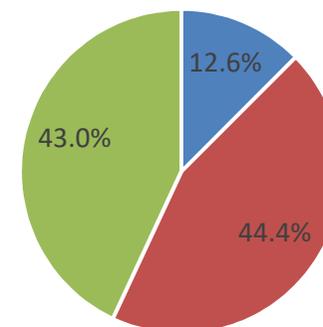
Q5 あなたの日々の生活のなかで、以下の子どもの権利は大切にされていると思いますか。(複数回答)

選択肢	割合	件数
安心して生きる権利 (いじめ、体罰、虐待などで心身を傷つけられない など)	63.1%	1,146
豊かに生き、育つ権利 (学び、遊び、自由な方法で表現する など)	66.7%	1,211
自分らしく生きる権利 (個人として尊重され、他者との違いが認められる など)	56.3%	1,022
身近なおとなに思いや願いを受け止めてもらえる権利 (自分の思いや願いを自由に表明できる など)	51.9%	943
社会に参加する権利 (自分の意見が生かされる機会を与えられる など)	37.5%	681
大切にされているものはない	10.4%	188
その他 (内容: 現状どれも十分とは言えない)	0.1%	1
	285.9%	5,192

n= 1,816

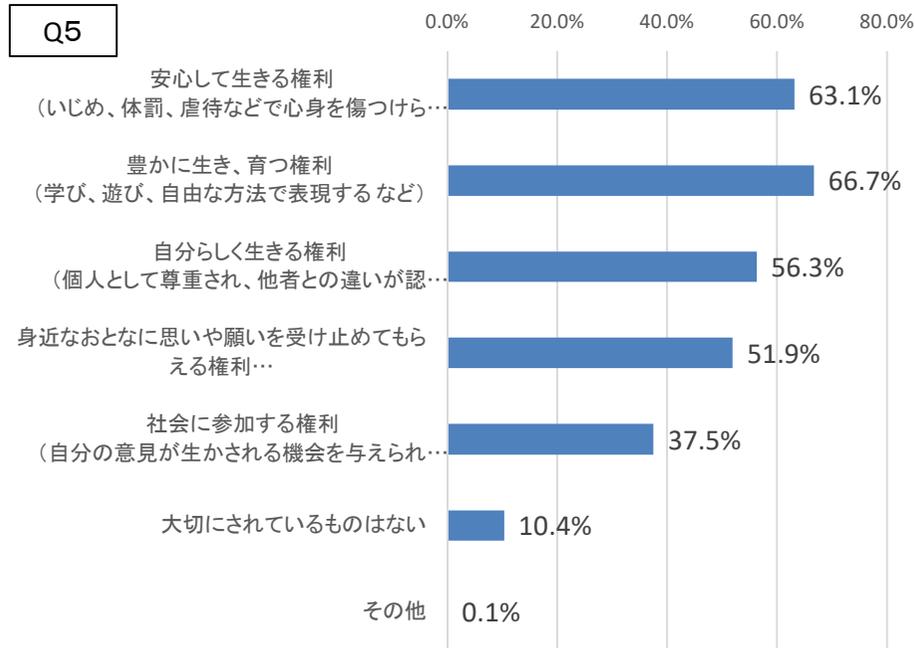
⇒子ども向けのアンケートと同様、「安心して生きる権利」や「豊かに生き、育つ権利」が大切にされていると感じられている一方で、意見表明や社会参加に関する権利は相対的に低い結果となっています。「大切にされるものはない」と回答した割合も10%存在しています。

Q4



■ 内容まで知っている ■ 名前は知っている(聞いたことがある) ■ 知らない

Q5

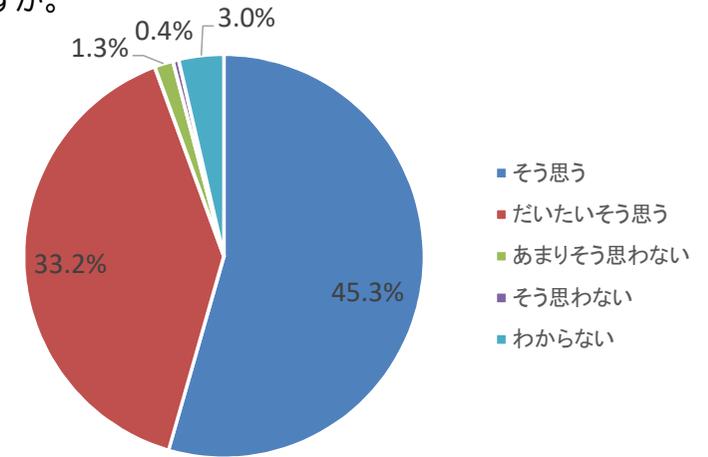


Q6からQ8は「お子さんがいる方」が回答

Q6

Q6 あなたはお子さんが不安な様子などをしていたら、声をかけたり話を聞いたりしていますか。

選択肢	割合	件数
そう思う	45.3%	823
だいたいそう思う	33.2%	603
あまりそう思わない	1.3%	23
そう思わない	0.4%	7
わからない	3.0%	55
	83.2%	1,511
	n=	1,816

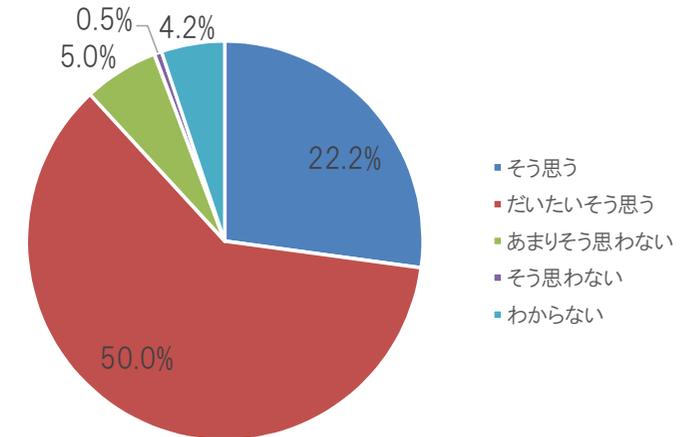


⇒ 回答者の約78%は不安な様子を見て声掛け等を行っています。

Q7

Q7 あなたはお子さんの考えや意見を理解し、尊重していると思いますか。

選択肢	割合	件数
そう思う	22.2%	404
だいたいそう思う	50.0%	908
あまりそう思わない	5.0%	91
そう思わない	0.5%	9
わからない	4.2%	77
	82.0%	1,489
	n=	1,816



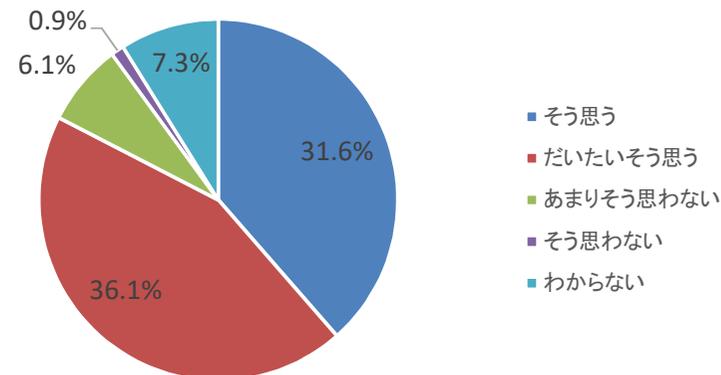
⇒ 回答者の約88%はお子さんの考えや意見を尊重するようにしています。  
一方、5.5%は尊重して思わない、あまりそう思わないと回答しています。

Q8 お子さんは「自分のことが好き」と考えていると思いますか。

選択肢	割合	件数
そう思う	31.6%	573
だいたいそう思う	36.1%	655
あまりそう思わない	6.1%	110
そう思わない	0.9%	17
わからない	7.3%	133
	81.9%	1,488
	n=	1,816

⇒おとなの約7割が、子どもは「自分のことが好き」と考えていると思うかについて、「そう思う」と回答していますが、同様の趣旨の子どもへの質問で「自分のことが好き」と回答した方は5割程度と、おとなと子どもで認識のずれがあることが伺えます。

Q8

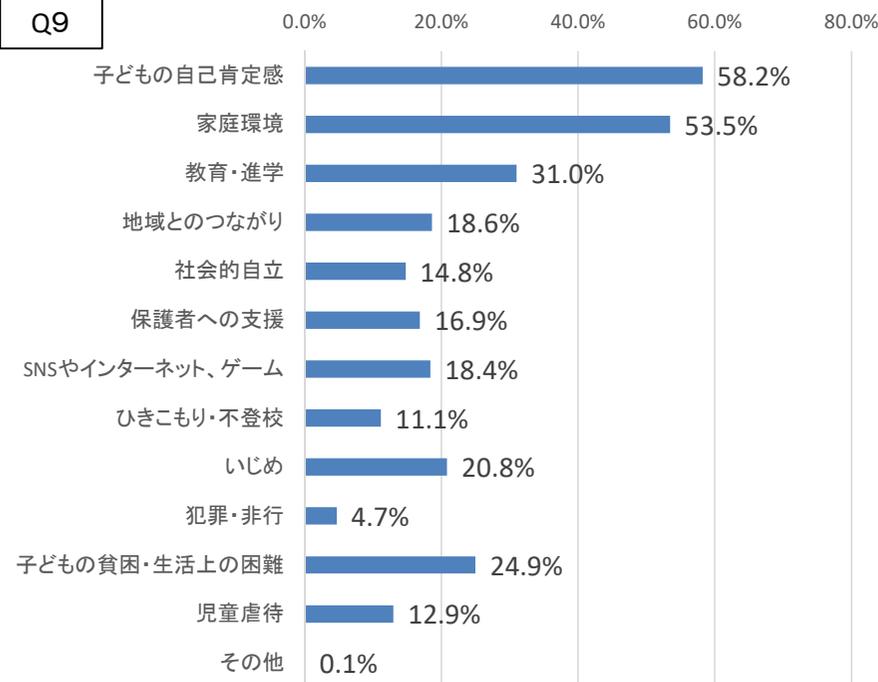


Q9 あなたが子どもを取り巻く課題として重要だと思うものは何ですか。(複数回答)

選択肢	割合	件数
子どもの自己肯定感	58.2%	1,057
家庭環境	53.5%	971
教育・進学	31.0%	563
地域とのつながり	18.6%	338
社会的自立	14.8%	268
保護者への支援	16.9%	306
SNSやインターネット、ゲーム	18.4%	334
ひきこもり・不登校	11.1%	202
いじめ	20.8%	378
犯罪・非行	4.7%	85
子どもの貧困・生活上の困難	24.9%	453
児童虐待	12.9%	235
その他 (内容:自分の考えをしっかりと伝えること)	0.1%	1
	211.3%	5,191
	n=	1,816

⇒子どもを取り巻く課題として重要なものとして、「自己肯定感」「家庭環境」が多数を占める結果となり、次いで「教育・進学」「子どもの貧困・生活上の困難」「いじめ」が重要と考えられています。

Q9



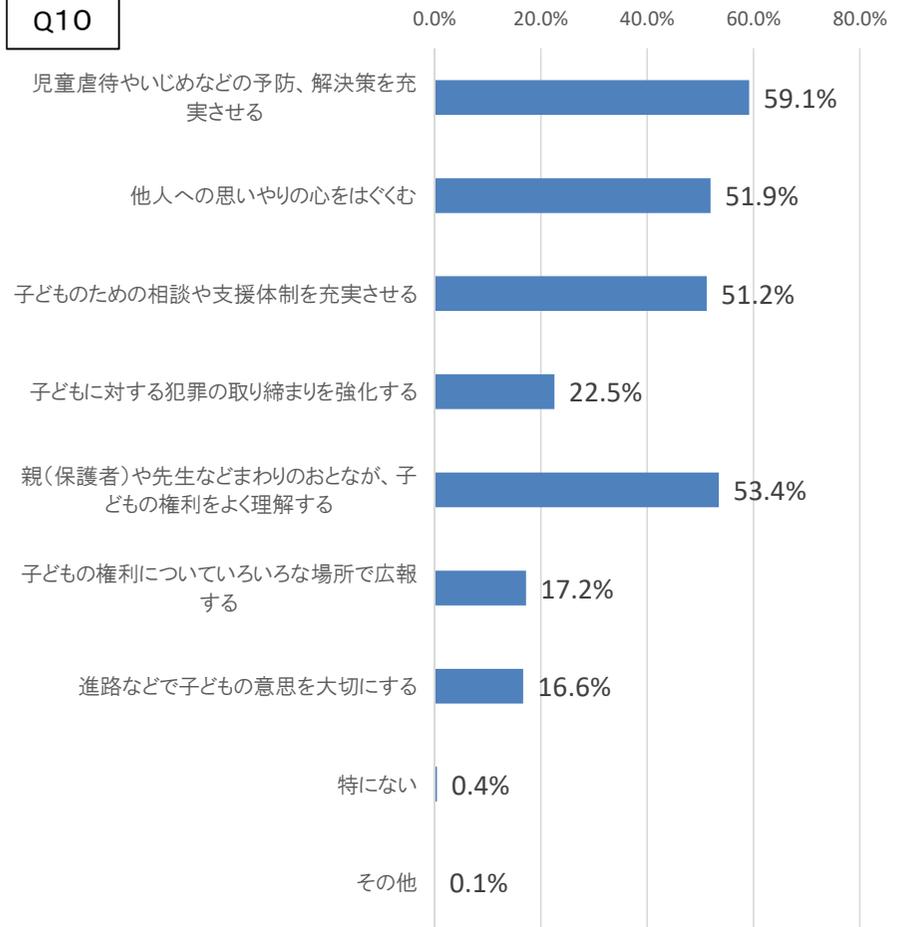
Q10 子どもの権利を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

選択肢	割合	件数
児童虐待やいじめなどの予防、解決策を充実させる	59.1%	1,074
他人への思いやりの心をはぐくむ	51.9%	942
子どものための相談や支援体制を充実させる	51.2%	929
子どもに対する犯罪の取り締まりを強化する	22.5%	409
親(保護者)や先生などまわりのおとなが、子どもの権利をよく理解する	53.4%	970
子どもの権利についていろいろな場所で広報する	17.2%	312
進路などで子どもの意思を大切にする	16.6%	302
特にない	0.4%	8
その他 (内容:子どもにかかわるおとなの権利も守られる、家庭が経済的に豊かであれば大体解決する)	0.1%	2
	272.5%	4,948

n= 1,816

⇒子どもの権利を守るために必要なことについては、子どもへのアンケートと近い結果となりました。おとな向けアンケートにおいても、親や先生などまわりのおとなが子どもの権利をよく理解することが重要と考えています。

Q10



Q11 新潟市が「すべての子どもが豊かな子ども期を過ごすことができるまち」となるために、あなたのご意見があれば記載してください。(自由意見)

区分	回答(抜粋)
おとなの意識	<p>子どもの権利条約について、大人が当たり前のように理解していることが必要です。子どもの安心安全が守られるために、大人が協力し合う社会になれば良いと思います。</p>
	<p>子どもも生まれたときから一人の人として尊重されて育まれるという社会的な意識やそのための親の意識改革が必要ではないかと感じます。地域社会でも次の世代をみんな育てるといった共通イメージが必要なのではないのでしょうか。</p>
	<p>子どもが小学校から子ども条例の広報紙をもらってきて一緒に読みました。当たり前のことかもしれませんが、子どもにとって大切な権利であり、大人である私たちが守っていかなくてはならないと改めて気づかされました。そして家庭だけではなく、日々過ごす保育園や学校の大人の方達にも是非この子どもの権利を意識してもらいたいです。</p>
	<p>自分の家の近くで子供が犯罪に巻き込まれ亡くなりました。このようなことが二度と起きないよう地域とのつながりを今一度、考えていく時期だと思います。</p>
市への要望	<p>ちゃんとした情報が得られず、孤立している保護者もいると思うので、ショッピングセンターなど、ふらっと気楽に立ち寄れる相談場所があると良いなあと考えております。</p>
	<p>親も子育てに苦しんでいる。子供もそんな親に苦しんでいることがある。子育ては決して親だけでなく、第三者があたたかく見守り、手助けできる場所、親も子どもも気軽に助けを求められる場所が必要だと思う。</p>
	<p>東区の寺山公園といーてらすのように、見通しが良くて大人の目が届きやすい、子どもが安心して集まり過ごせる場所が各地域にあるとよいです。学校や家庭では相談しにくいことも気軽に相談できる場所を併設してはいかがでしょうか。</p>
	<p>自己肯定感の低い子どもが多い気がします。もっと子どもの話を聞く、子どもの意見を大切に上げてあげる時間を増やす事が大切だと思います。例えば親子カフェを作ってゆっくり飲み物を飲みながら話をする場所を提供するのもいいかと思います。一組30分制、飲み物は全て100円、話に集中するために食事はなしであれば入りやすいです。</p>
	<p>3人子供がいる家庭への支援をお願いしたい。よくあるのが年収制限です。子供が1人、2人の世帯と、3人の世帯とで同じ制限をかけられると困ります。1人多く育ててるのに、、、と不満が出ます。これは多くの3人子供がいる世帯でよく聞くグチです。市町村によっては国の補助金からもれた世帯を市町村が補助する所もあります。また、子供医療費が無料の県から来た人は、新潟市の子供医療費が約500円かかる事自体、子育てに前向きでは無いと受け取られています。県外へ行くともっと子育てしやすい市町村があります。それらの人達が新潟に定住することに躊躇しています。対策を宜しくお願い致します。</p>
	<p>格差社会がますます広がり、その影響が子どもに及んでいます。最も危惧するのが家庭環境、事情によって教育を受ける機会にばらつきが出ること。ぜひ是正する施策を講じて欲しいです。</p>

区分	回答(抜粋)
市への要望	<p>こどもを育てるためには地域支援も大切。たとえば学童保育の充実。だが実態は支援員不足で理想的な運営とはかけ離れているクラブが多い。賃金含め手厚い労働環境の改善が必要です。 モンスターペアレントへの対応。学校が疲弊している。学校任せでなく、行政はかけ声だけでなく、積極的に「具体的」な支援を早急にすべき。</p> <p>上記回答のように経済的な問題が大きく影響すると考えます。大人の社会生活の縮図が子どもに反映されてくると考えますので、経済的な支援と最適な就労支援などが必要なのではないかと考えます。</p> <p>教職員の勤務環境を良くしてほしい</p> <p>学校設備費にもっと税金使って、古い楽器や図書を新しくしてください</p> <p>私の子供はイジメではなく、『同年代の子供』、『大勢の人がいる場所』、『決められたスケジュール』などが苦手で学校が大嫌いになりました。発達障害との診断もうけました。 フリースクールにも通いましたが、狭い空間に大勢の子供がいること、騒がしい空間に耐えられず、また月謝が高額なこともあり、やめてしまいました。ただ、フリースクールへは少しだけでも通いたい気持ちはあるようです。 是非、月謝の補助など市の支援をお願いしたいと思います。</p> <p>医療体制が他県より弱い。もっと患者側に立った医療体制に取り組んで欲しい。</p>
その他	<p>普段から感じていますが、周りの大人が声をかけることが豊かな子供期を過ごすことに繋がっていると思います。 褒める、注意することはもちろん、何気ないことでも話しかけたり気にかけることにより、子供を傷付けようとする人間から守ったり、事故を未然に防ぐことが出来ると思います。 普段から、声をかけ慣れていれば、有事の際に知らない人に助けを求めることにも抵抗を少なく出来ると思います。 子供に携わる人は、全員とは難しいとは思いますが、病気や数字だけでなく、子供の性格や姿勢を見て判断して欲しいです。</p> <p>いじめのないまち</p> <p>一人一人に焦点が当たりやすい街にしてほしい。</p> <p>コロナ禍で色々な行事が取りやめになり、娘は大切な高校生活で調子を崩してしまいました。今しかできない経験をする機会を失い、子どもたちはがっかりの連続でも頑張っています。一日も早くコロナが治まり会話しながらお弁当を食べる事のできる日常に戻ってほしいです。</p>